

## 2012 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） 古代史料領域 中世史料領域 近世史料領域 <input checked="" type="checkbox"/> 海外史料領域 複合史料領域
2.申請課題名 本所所蔵品ならびに中国国家博物館所蔵品にみる「倭寇」像の比較研究
3 新規・継続の別（丸をつけてください） 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
4.申請者 中世史料部門・助教・須田牧子
5.所内共同研究者 古文書古記録部門・教授・久留島典子 古代史料部門・助教・藤原重雄 近世史料部門・教授・保谷徹 史料保存技術室・技術専門職員（写真）・谷昭佳 史料保存技術室・技術職員（写真）・高山さやか
6.希望する研究期間 2011 年度～2013 年度 （ 3 年間）
7.課題の概要(400 字程度)（この項は広報等に利用・掲載することがあります） 本所所蔵「倭寇図巻」は後期倭寇（一六世紀倭寇）のイメージを具体的に描いた絵巻として夙に知られている。一方、中国国家博物館には「抗倭図巻」と名付けられた絵巻が所蔵されており、他にも倭寇を描いた絵画史料が所蔵されている。本研究では、中国国家博物館の許可と協力を得て、第一に「抗倭図巻」と「倭寇図巻」の調査・分析をすすめ、二つの絵巻を比較検討して、その史料的性格を明らかにしていく。第二に、国家博物館が所蔵する倭寇関連の絵画史料の調査をすすめ、近世中国において「倭寇」がいかなるものとして記憶されたのかという問題について検討する。
8.研究の目的(400 字程度) 近年、東アジア海域研究の進展は目覚ましいものがあり、文献史料の掘り起こしも進んでいる。しかしながら、画像史料、それも倭寇関係のものとなると、きわめて限られるのが現状である。そうしたなかで中国国家博物館所蔵「抗倭図巻」の発見と紹介は重要な意味を持ち、本所所蔵の「倭寇図巻」を再考させる契機ともなった。これまでの研究では、「倭寇図巻」と「抗倭図巻」について、高精細デジタル画像・赤外線デジタル画像の撮影・分析を行ない、従来知られていなかったり読めなかったりした文字を発見・解読した。また、両図巻は、互いに高い親近性を持つ一方で、独自の要素も多く持っており、直接の親子関係にあるというよりは、原本からそれぞれに派生していった可能性が高いことなどを確認した。本研究では、最近の技術の向上によって可能になったこうした成果を活かし、二つ

の絵巻自体の解説をさらに進めるとともに、これら二つの絵巻の存在をどう理解するかを歴史的な文脈の中で検討したい。すなわち、「倭寇図巻」は従来から江南の職業画家の手により描かれたものとされてきたが、「抗倭図巻」も同様であると考えられる。両図巻が工房で作られるようないわば量産される流行の図柄であったとすれば、それは「嘉靖の大倭寇」と呼ばれた歴史的現象が、近世中国においてどのように記憶・伝承されたのかという問題の解明につながっていくのである。

#### 9. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400 字程度)

高度な写真技術による撮影成果がこの研究には不可欠であり写真技術者の協力は必須である。高精細デジタル画像や赤外線画像の撮影により、各史料を細かく検討するための基礎的な条件が整うからである。また対象とする史料は画像であるから、美術史研究者の参加により、美術史的な視点から考証を行なうことが必要である。また対象史料が描いているのは明代中国であり、明代史研究者の参加により、史料に描かれている風俗の検討や、倭寇たちを迎え撃つ明軍の軍制についての理解を深めることができる。さらに一六世紀江南地域・東アジア海域研究者の参加により、これら画像史料の描かれた歴史的背景を理解する上で必要な視野と専門知識を得ることが出来る。

#### 10. 研究の実施計画

2011 年 7 月の中国国家博物館訪問において、「太平抗倭図」という、倭寇との合戦を描いた約 2m 四方の図を熟覧した。これは従来日本では知られていない図像であり、内容といい伝来した過程といい近世中国の倭寇イメージを考える上で大変興味深い論点を含んでいる。このことは 2011 年 10 月の国際研究集会で報告される。また一連の研究の過程で、清代の版本にこれまで知られていない倭寇図が存在することが判明した。このことは 2011 年 12 月に国際研究集会で報告される。なお前者は、科学研究費補助金基盤研究 A「ロシア・中国を中心とする在外日本関係史料の調査分析と研究資源化の研究」、後者は本所画像史料解析センターPJ「東アジアにおける「倭寇」画像の収集と分析」との連携により行われる。

2012 年度においては、以上の成果を踏まえ、「抗倭図巻」「倭寇図巻」の解説を深めていくとともに、これら新出史料の解説を進める。また中国国家博物館との連携を一層強化して、倭寇関連の絵画史料および広く日本関係史料の調査をも進めるとともに、後期倭寇の実態ならびに 16 世紀における中国の日本認識についての考察を深め、これら絵画史料の歴史的な位置づけを図っていく。具体的には中国国家博物館への訪問・調査を継続し、その成果を国際研究集会としてひろく公開するとともに、その成果をさらに深めていくべく、調査・検討を継続し、研究会を開催し、情報交換を行う（2011 年度は一回開催）。

#### 11. 研究成果の公開計画

研究成果は国際研究集会を開催して発表し、研究紀要等に論文を掲載する。  
成果を踏まえ、図録の作成・刊行を行なう（2013 年度予定）。

#### 12. 共同研究員にもとめる役割

- ・ 中国における原本調査・撮影・関連史料調査への参加
- ・ 倭寇関係史料を理解するための多角的な視点の提供と研究への参加（一六世紀江南地域における倭寇の実態についての検討・明代軍制史の研究・画像史料の図像学的検討等）
- ・ 国際研究集会における報告と図録に所収する研究論文の執筆。